2021年3月期(2020年度) 決算説明資料

2021年4月30日日本精化株式会社



4期連続増収増益。売上高は300億円超、各利益段階で 過去最高益更新、営業利益は中期経営計画目標※達成。

	2019年度	2020年度		直近予想(20	20/9/25)
(単位:百万円)	実績金額	実績金額	前期比 増減率(%)	金額	予想比 増減率(%)
売上高	29,047	30,509	5.0%	29,000	5.2%
営業利益	3,641	3,939	8.2%	3,600	9.4%
営業利益率(%)	12.5%	12.9%		12.4%	
経常利益	3,920	4,154	6.0%	3,850	7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,621	2,758	5.3%	2,550	8.2%
1株当たり当期純利益 (円)	110.37	116.17		107.38	

※中期経営計画目標 2022年度 連結営業利 益39億円



・当社グループの事業セグメント(四角枠)及び主な製品群(下線)

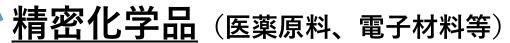
工業用製品

化粧品原料 (保湿等機能を持つ化粧用基材等)



リピッド (医薬用高純度リン脂質※等)











家庭用製品(手洗い石鹸、手指消毒剤等(㈱アルボース))



・セグメント別では、新型コロナウイルス影響により、工業用製品が売上高、営業利益共に減少するも家庭用製品がカバー

報告セグメント		2019年度	2020年度	増減	
(単位:百万円)				金額	率
工業用製品	売上高	20,573	19,306	△ 1,268	△ 6.2%
	営業利益	2,748	2,293	△ 454	△16.5%
	営業利益率	13.4%	11.9%		
家庭用製品	売上高	7,337	10,070	2,733	37.2%
	営業利益	620	1,423	804	129.7%
	営業利益率	8.4%	14.1%		
その他※	売上高	1,137	1,134	△ 2	△0.2%
	営業利益	274	223	△ 51	△18.6%
	営業利益率	24.1%	19.7%		

※その他:不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業

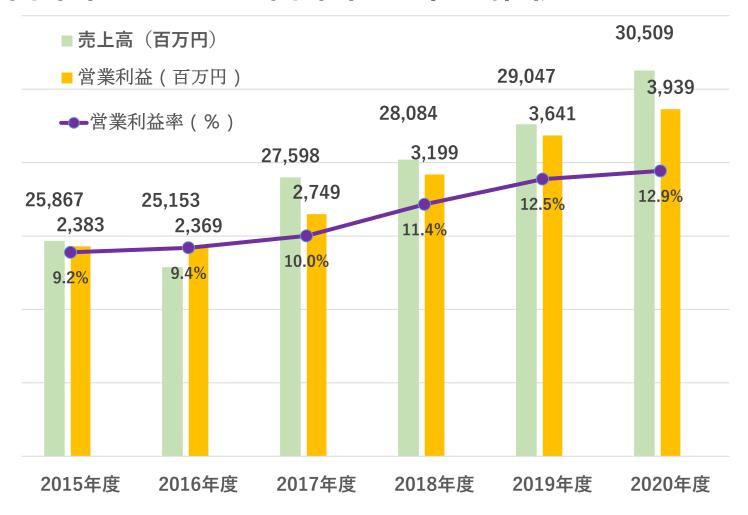


・新型コロナウイルス 対前年比影響

報告セグメント	時期	影響
工業用製品	上期	・(△)自動車用途、事務機器用途などの汎用工業用原料販売減 ・(△)海外向け「ラノリン」「コレステロール」および化粧用 機能原料の販売減
	下期	・(△)上期の状況が更に悪化も、一部製品群に下げ止まりの兆 し
	上期	・ (+) 第1波および第2波の影響で、感染症対策製品への 需要増
	下期	・(+)第3波により、需要が高水準で継続 ・(+)感染症対策製品の生産能力増強効果発現

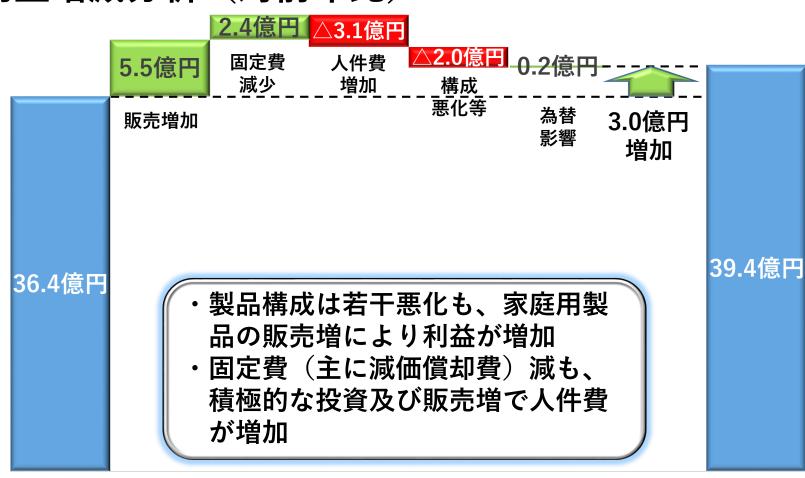


・売上高、営業利益および営業利益率の推移





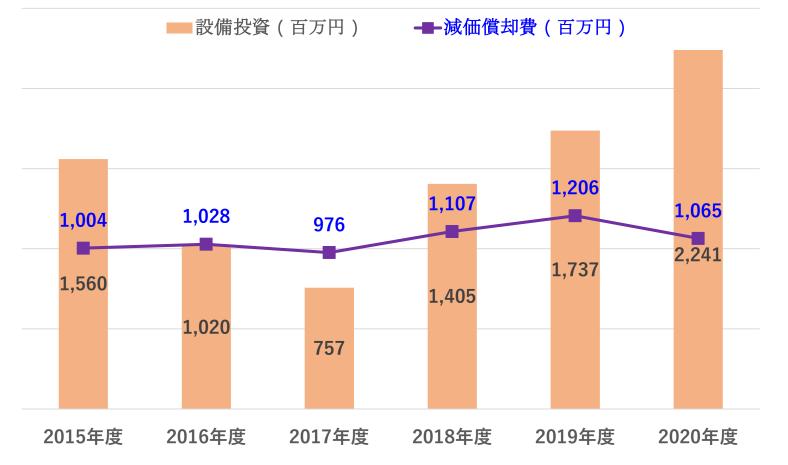
• 営業利益増減分析(対前年比)



2019年度 2020年度



・設備投資(含無形固定資産)および減価償却費中期経営計画※に基づき、減価償却費以上の設備投資を継続



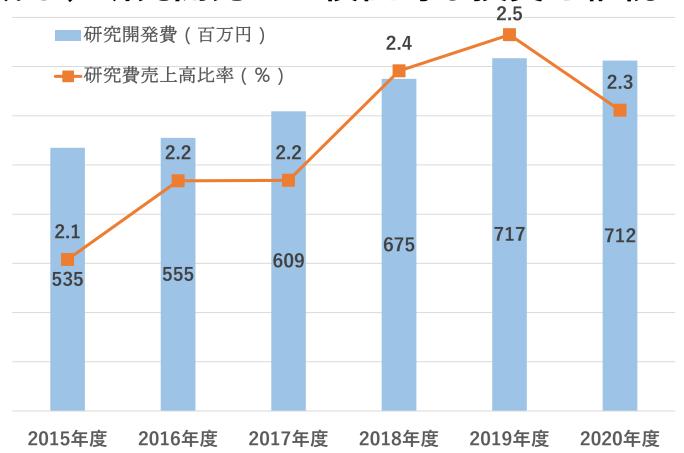
※中期経営計画

2018〜2022年度 (5年間)で 総額100億円の 設備投資を計画



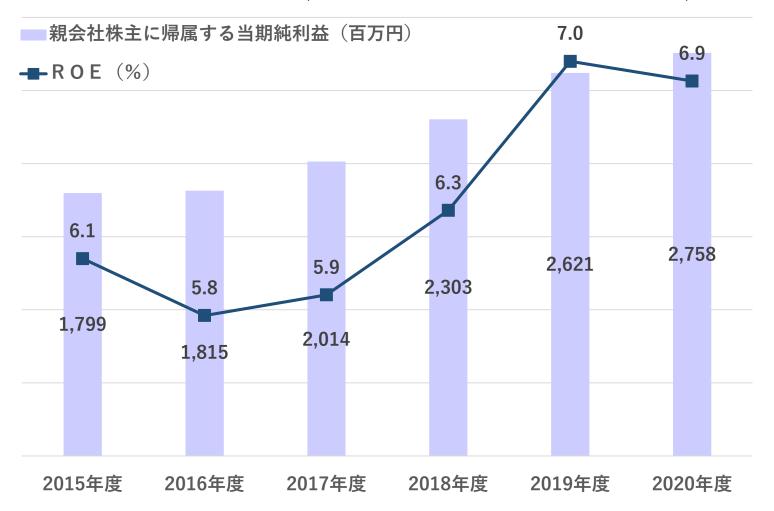
• 研究開発費

当期は微減も、研究開発への積極的な投資を継続





・当期純利益およびROE(自己資本当期純利益率)の推移





- ・(トピックス)事業・資産ポートフォリオ最適化への取り組み
 - ①太倉日夏精化有限公司(中国)の出資持分売却環境負荷が大きい皮革油剤事業から撤退 ⇒子会社出資金売却益309百万円を計上

- ②固定資産の減損処理 製造設備および共用資産の減損処理を実施
 - ⇒減損損失△280百万円を計上



2. 2021年度連結業績予想

- ・新型コロナウイルスの影響は通年継続する前提
- ・売上高、利益共にほぼ前年度並み

	2020年度	2021年度	
(単位:百万円)	実績金額	予想金額	前期比 増減率(%)
売上高	30,509	31,000	1.6%
営業利益	3,939	3,900	△ 1.0%
営業利益率(%)	12.9%	12.6%	
経常利益	4,154	4,100	△ 1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,758	2,750	△0.3%
1株当たり当期純利益 (円)	116.17	115.80	

※前提レート1US\$=105円1ユーロ=125円



2. 2021年度連結業績予想

・工業用製品は回復も、新型コロナウイルス影響減により 家庭 用製品が売上高、営業利益共に減少 _____

報告セグメント		2020年度	2021年度	増減	
(単位:百万円)				金額	率
工業用製品	売上高	19,306	21,000	1,694	8.8%
	営業利益	2,293	2,600	307	13.4%
	営業利益率	11.9%	12.4%		
家庭用製品	売上高	10,070	8,800	△ 1,270	△12.6 %
	営業利益	1,423	1,000	△ 423	△29.7%
	営業利益率	14.1%	11.4%		
その他 <mark>※</mark>	売上高	1,134	1,200	66	5.8%
	営業利益	223	300	77	34.5%
	営業利益率	19.7%	25.0%		

※その他:不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業



2. 2021年度連結業績予想

・新型コロナウイルス 対前年度影響(想定)

報告セグメント	時期	影響(想定)
工業用製品	上期	・(+)前期に引き続きインバウンド需要の回復は鈍いものの、 化粧品メーカーの在庫調整が完了、需要底打ち
	下期	・(+)全体的な需要回復期に
家庭用製品	上期	・(△)夏場により感染症対策製品の需要が落ち着く
	下期	・(△)感染症が流行しやすい冬場に需要が回復も、前年度比で は減



3. 2021年度トピックス(工業用製品)

- ・医薬用リン脂質生産設備への投資上積み
- √既公表の新プラント建設(総投資額: 27億円)に加え、米国の製薬企業である ギリアド・サイエンシズ社とのアライア ンスによる新工場建設を決定
- ⇒総額58億円の投資を実行
- ✓ 医薬用リン脂質を用いた最終製品に近い 川下製品開発を推進し、医療モダリティ (医療様式)の多様化に対応



ギリアド社とのアライアンスによる 新工場外観予想図

総投資額:31億円(含事務所棟新設)

稼働開始予定時期:2024年頃の見込み



3. 2021年度トピックス (家庭用製品)

- ・感染対策製品の強化・充実(アルボース)
- √新製品 サニセイバー除菌クリーナー (主としてコロナ対策パーテーションの除菌対策)



√ブランドラインナップのバリエーション強化

複数の手洗い、手指消毒製品を様々な場面でニーズ(詰め替え、携帯、非接触)に合わせた製品展開





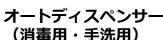


「ハンドホイップ」



















アルボース手指消毒剤 「アルボナース」



4. サステナブルな製品開発(工業用製品)

RSPO



持続可能なパーム油の生産・利用を目指す国際的な認証制度である「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」の認証を取得

ECOCERT/COSMOS



有機認証の国際機関である ECOCERT/COSMOSの認証を 得た製品をラインナップ。

non-GMO

「安心・安全」を基本とした化粧品原料の製造のため、<u>遺伝子組み換え原料を使用しない製品</u>を順次拡大

SUSTAINABLE GOALS





































日本精化は、国際社会の一員として、持続可能な開発 目標(SDGs)に賛同し、 より良い国際社会の実現に 貢献していきます。



4. サステナブルな製品開発(家庭用製品)

・環境





- ・環境負荷低減を意図した容器包装対応(つぶせるプラ容器、パウチ等)、バイオマス容器への転換
- ・FSC認証(責任ある森林管理マーク)包装紙への置換

・<u>社会</u>





- ・<u>新型コロナウイルス対応</u> 医療物資増産(手指消毒剤)に貢献した企業として、 アルボースが経済産業大臣より感謝状を受領
- ・<u>ハンドソープ原料</u>RSPO認証パーム油の積極的な採用



5. (ご参考) 1株当たり配当金等推移

- ・2020年度は増配(4年連続)
- ・2021年度も前年と同額の配当を実施予定





- 本資料に記載している業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報および 合理的であると判断する一定の前提に基づいており、 当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想と は異なる結果になり得ることをご承知おきください。